



手の痺れ、物がつまみにくい そんな時は“手の外科”へ



人類は直立二足歩行によって両手が自由になり、進化しました。特に親指と人差し指で物をつまむという行為は人間だけが獲得した特徴的な機能です。

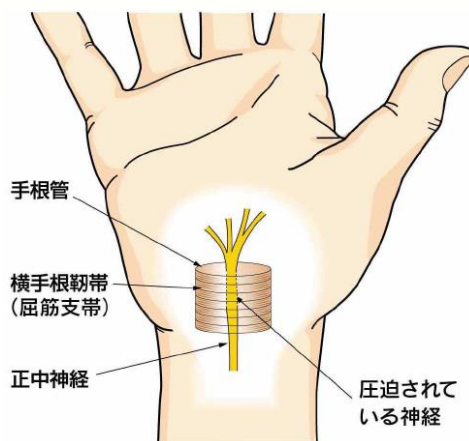
手は人間の行動と密接に関わりがある特別な器官で、その手の病気や怪我を診療するのが手外科です。肘から手までが対象部位です。

手にしびれや痛みをもたらす手根管症候群

手根管症候群とは、正中神経が手首のところで圧迫を受けて、親指から薬指の半分までにしびれや痛みなどが生じる疾患です。女性に多く、50代以降に生じやすい疾患ですが、むくみやすい妊娠前後に発症する場合もあります。

手根管症候群は手術が必要？

サポーター(スプリント)による安静やステロイド注射など保存療法をまず行い、改善しない場合は手術をお勧めします。



※日本手外科学会「手外科シリーズ1」から引用

“手の手術”はどのように行われるのか

手術には大きくわけて直視下と鏡視下という2つの方法があります。直視下の場合は手掌部を切開するため、術後に手をついた際の痛みが強く生じるケースがあります。鏡視下の場合はこの術後の痛みが生じにくいメリットがありますが、内視鏡を使用するため視野が狭く、神経や血管を傷つけてしまうリスクが直視下より高くなります。

当院では従来の方法に工夫を加え、神経や血管を確認できる十分な視野を確保した、より安全性の高い鏡視下手根管開放術を行っています。

手術は日帰りで、1時間程度で終わります。両手の手術が必要な場合は片手ずつ手術を行います。事務仕事であれば翌日からの復帰も可能ですし、水に濡れないようにすればお風呂も入れます。

早期治療が早期回復につながります

手根管症候群が進行すると、指の筋肉がやせて物がつまみにくくなり、治療後の回復にも時間がかかります。早期治療が早期回復につながりますので、手のしびれや痛みで悩んでおられる方はご相談ください。

“手の外科”で診察する主な疾患

- 骨折や脱臼、外傷
- 腱鞘炎や腱の障害
- ヘバーデン結節やCM関節症などの変形性関節症や関節リウマチ
- 手根管症候群などの末梢神経の疾患
- 多指症や合指症などの先天異常



市立大津市民病院

整形外科

診療部長 小橋 裕明